

The background of the top section is a photograph of various fresh herbs, including thyme, sage, and rosemary, along with lemons and a lime, arranged on a rustic wooden surface. A semi-transparent dark grey box is overlaid on the right side of this image to contain the title text.

株主のみなさまへ

第91期 第2四半期 株主通信

平成28年4月1日～平成28年9月30日

Contents

トップメッセージ	1
連結決算ハイライト	2
連結財務データ	3
トピックス	5
会社情報・株式情報	6

トップメッセージ | TOP MESSAGE |

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第91期平成29年3月期第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の概況につきまして、ご報告申し上げます。

本年度前半の世界経済を概観しますと、米国や欧州では緩やかな景気回復が見られましたが、中国をはじめとした新興国等における経済成長の鈍化や英国のEU離脱問題等により、依然として先行きが不透明な状況となっております。

一方、国内に目を転じますと、政府の経済政策等を背景に緩やかな回復基調で推移いたしましたが、円高の進行による企業の景況感悪化や個人消費の低迷等、依然として楽観できない状況が続いております。

香料業界においては、中国や東南アジア他の海外市場での成長が引き続き期待できるものの、国内および欧米の成熟市場での事業展開においては、競合他社との競争環境が一段と厳しくなっております。

このような状況の中、フレーバー事業の売上高は米国子会社等が好調に推移したものの、為替の影響により、ほぼ前期並みの430億円(前年同期比0.4%減)となりました。フレグランス事業は中国子会社等が低調に推移し182億円(同8.7%減)となりました。アロマイングリディエーツ事業においては、主力のメントールが堅調でしたが、為替の影響を受け56億円(同1.1%減)となりました。ファインケミカル事業は海外製薬メーカー向け医薬中間体が伸長し、為替による影響をカバーし30億円(同19.9%増)と大幅増収となりました。その他不動産事業における売上高は7億円(同1.2%増)となりました。

その結果、当第2四半期の連結売上高は706億円(前年同期比2.0%減)となりました。

利益面では、営業利益は45億円(同0.5%増)、経常利益は39億円(同15.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は32億円(同18.9%減)となりました。

株主還元策

中間配当金につきましては、長期安定配当の方針を継続し、前期同様1株につき20円とさせていただきます。

また、資本効率の向上、および株主還元の充実を目的として、平成28年11月11日付で取得金額3億円、130千株を限度とした当社普通株式の取得を決議し、今期中の取得を進めてまいります。

経営方針

当社グループは、創業100周年を迎える2020年に世界トップクラスの香料会社となることを長期ビジョンとした「TAKASAGO GLOBAL PLAN」を掲げ、前期2015年度からは、飛躍的な成長を実現するため基盤を構築する課題解決の3年間と位置付けた中期経営計画「TAKASAGO GLOBAL PLAN GP-3(2015～2017年度)」を始動しております。「技術革新に基づく価値創造」、「挑戦する人材育成」等の基本方針を通じて、独自性、優位性のある革新的な技術をめざし、新たな価値創造に努めると同時に、グローバルで活躍できる人材開発、人材育成を加速してまいります。

当社を取り巻く経営環境は今後も楽観できない状況が続きますが、たゆまず「中期経営計画GP-3」の諸施策を推進することで、業績向上と企業価値向上に一層邁進してまいります。

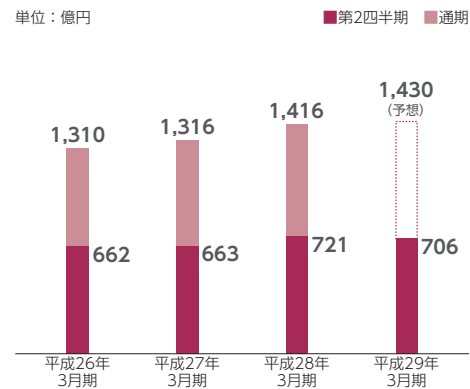
株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長 榑村 聡

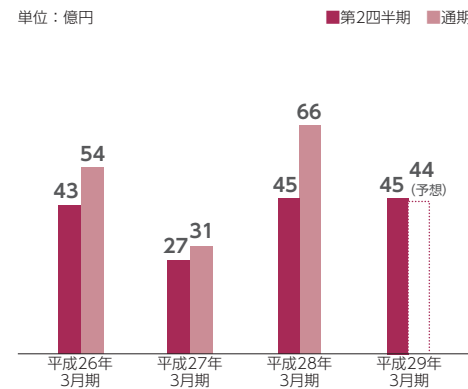
売上高

単位：億円



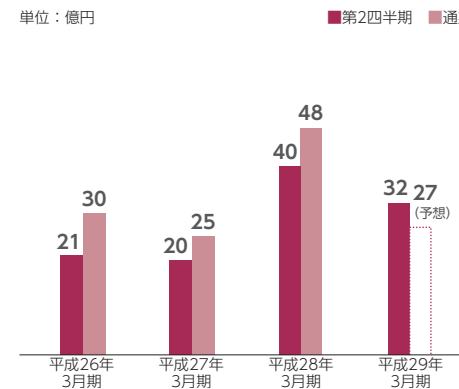
営業利益

単位：億円



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

単位：億円



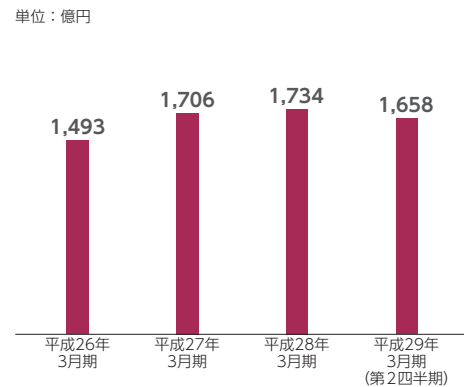
中期経営計画GP-3財務目標(平成30年3月期)

単位：億円

売上高	1,600
営業利益	70
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	50
ROE	6.0%
営業利益率	4.4%
(為替前提)	US\$118 EUR145
海外売上比率	55%

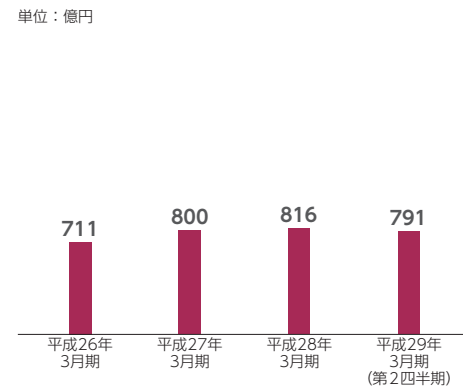
総資産

単位：億円



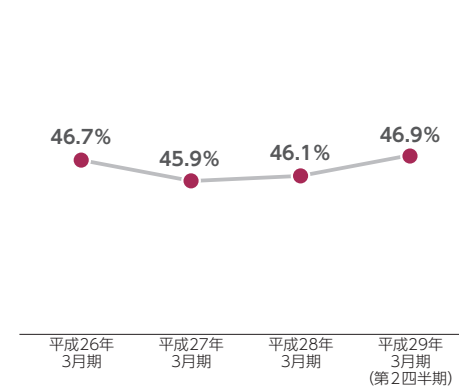
純資産

単位：億円



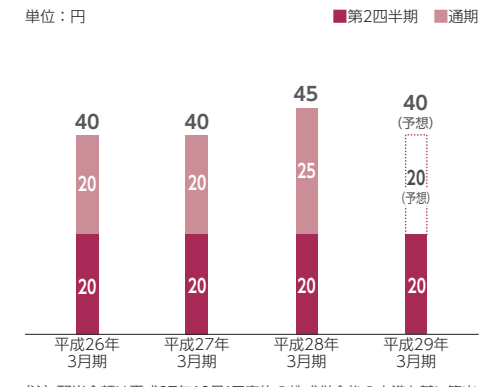
自己資本比率

単位：%



1株当たり配当金

単位：円



(注) 配当金額は平成27年10月1日実施の株式併合後の水準を基に算出

詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。
<http://www.takasago.com/ja/ir>

高砂香料 IR

検索

経営成績

単位：億円

科 目	平成25年3月期 (第87期／第2四半期)	平成26年3月期 (第88期／第2四半期)	平成27年3月期 (第89期／第2四半期)	平成28年3月期 (第90期／第2四半期)	平成29年3月期 (第91期／第2四半期)
売 上 高	601	662	663	721	706
売 上 原 価	414	452	451	485	475
売 上 総 利 益	186	209	211	236	231
販売費及び一般管理費	148	165	184	190	186
営 業 利 益	38	43	27	45	45
経 常 利 益	38	46	32	46	39
親会社株主に帰属する四半期純利益	26	21	20	40	32

Point 売上高 日本ではファインケミカル事業が伸長、米州も前期に引き続き好調に推移しましたが、為替の影響により、対前期比14億円の減収となりました。

Point 営業利益 売上高の減少に加え、三原工場の減価償却費増のマイナス要因があったものの経費抑制効果により、前期並の45億円となりました。

財政状態

単位：億円

科 目	平成25年3月期 (第87期)	平成26年3月期 (第88期)	平成27年3月期 (第89期)	平成28年3月期 (第90期)	平成29年3月期 (第91期／第2四半期)
流 動 資 産	743	825	886	868	835
固 定 資 産	574	668	820	865	822
流 動 負 債	466	497	564	508	482
固 定 負 債	238	284	341	409	384
純 資 産	612	711	800	816	791
(うち株主資本)	(605)	(627)	(643)	(685)	(713)
総 資 産	1,317	1,493	1,706	1,734	1,658

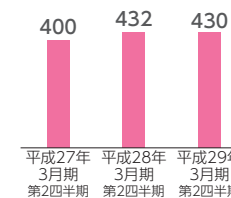
事業別概況

フレーバー事業



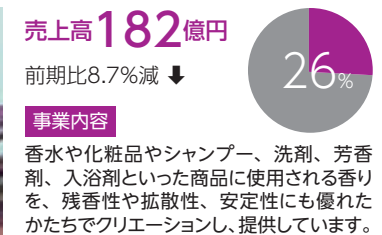
売上高

単位：億円



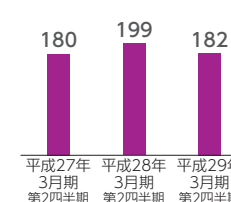
● 米国子会社において飲料向けに当社香料の採用が進み好調でしたが、為替の影響により、ほぼ前期並となりました。

フレグランス事業



売上高

単位：億円



● 中国子会社等が低調に推移したことにより減収となりました。

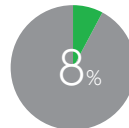
地域別概況

アロマイングリディエーツ事業



売上高 **56** 億円

前期比1.1%減 ↓

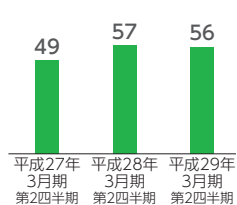


事業内容

光学活性技術により革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエイションに貢献しています。

売上高

単位：億円



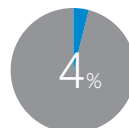
● 主力のメントールが堅調に推移しましたが、輸出時の為替相場の影響により、ほぼ前期並の水準となりました。

ファインケミカル事業



売上高 **30** 億円

前期比19.9%増 ↑

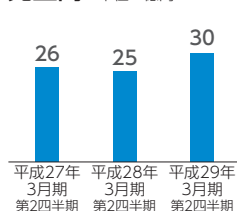


事業内容

不斉合成技術による医薬中間体、独創的な触媒、フォトレジストモノマー等の機能性材料を提供しています。

売上高

単位：億円



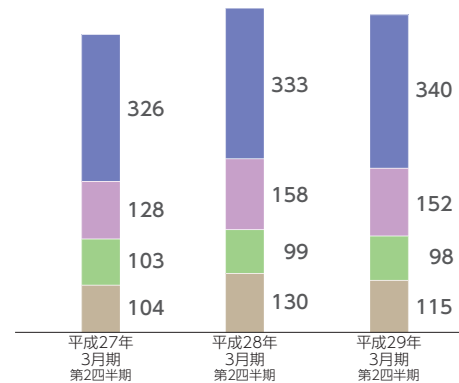
● 前期に続き、米国製薬メーカー向け医薬中間体ビジネスの伸長により大幅増収となりました。

※上記の他に、その他不動産事業の売上高7億円があります。

地域別売上高

単位：億円

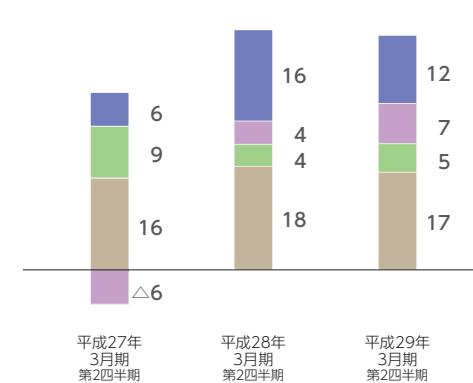
■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア



地域別営業利益

単位：億円

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア



日本

ファインケミカルにおいて、高付加価値品である抗ウィルス薬中間体が増収の牽引役となる一方、三原工場の減価償却費負担により減益となりました。

米州

フレーバーは清涼飲料用を中心に堅調に推移しました。前期好調の芳香剤ビジネスの反動でフレグランスは低調。為替の影響も加わり、減収となりました。利益面では飲料用フレーバー等高付加価値品の売上増により、増益となりました。

欧州

フレーバーは引き続き堅調を維持し、フレグランスは香水用が好調だったものの、為替による収益下押し影響により、減収増益となりました。

アジア

東南アジアはフレーバを中心に比較的堅調だったものの、中国において、フレグランス大手顧客による在庫圧縮、為替の影響も加わり、減収減益となりました。

インドネシアにて工場建設を見据え現地法人設立

豊富な人口を背景に、活性化していくインドネシアの食品や香粧品の消費者市場を見据え、平成27年7月現地法人 (PT. Takasago International Indonesia) を設立、同年9月にはジャカルタ近郊に工場建設用地を確保し、将来の事業拡大に向け着実に準備を進めております。平成28年2月には、現地の政府関係者、主要取引先等を招待した開所式を執り行いました。今後、食の多様化やハラールに対応した香料の需要が大きく見込まれ、それらのニーズを確実に捉え、高砂グローバル品質による供給体制を構築してまいります。



中国・広州にて製造カテゴリーおよび能力増強

平成28年9月、中国子会社高砂香料(広州)有限公司は、従来の飲料用フレーバーなどの製造カテゴリーに、加工食品用フレーバーや香粧品用フレグランスなど5カテゴリーを追加し、総合香料工場へと転換しました。このプロジェクトは、製造カテゴリーおよび能力を増強し、広州を中心とした華南地域の幅広い顧客への対応、また上海を併せた1国2拠点体制による安定供給を可能としました。経済成長が減速している中国ですが、一定の生活水準に達した消費者市場における香料の需要は、堅調だと考えられます。当社グループは、成長の余地がある中国市場に向けて、お客様からの信頼を獲得できるよう努めてまいります。



フランス人学生のインターンシップを実施

平成28年7月、当社の社会貢献並びにダイバーシティ推進活動の一環として、フランス人学生2名のインターンシップを実施しました。研修内容は、香料の調合作業、日仏の人事制度・採用活動の理解、日仏マーケット調査・分析など多岐にわたりました。その他、工場見学や香道体験も行いました。インターン生に、当社の事業並びに日本文化の魅力を少しでもお伝えできたかと思えます。このように当社は、国籍問わずダイバーシティへの取り組みを推進しております。今後も多様な人材が特性、個性を活かし働ける職場環境作りに努めてまいります。



日仏の人事制度について意見交換をするインターン生と社員

TAKASAGO COLLECTION®

当社は、香りの歴史と文化を伝える資料や美術品を収集してきました。「高砂コレクション®」は、香道具、香炉、香合、絵画など日本の美術品から古代エジプト、ギリシャ時代の香油瓶や18～20世紀の香水瓶、希少な天然原料である龍涎香など約1,000点に及びます。これらの一部を本社ギャラリーで展示しています。

場所：高砂香料工業・17階ロビー内
開室：10:00～17:00 (入室は16:30まで)
休館：土日祝日、年末年始、臨時休館日
料金：無料
交通：JR蒲田駅・徒歩3分

田口善国

注連縄文蒔絵香合
1981年 高5cm

田口善国 (1923—1998年) は重要無形文化財「蒔絵」の保持者 (人間国宝)。伝統的な漆芸技法を研究し、蒔絵、螺鈿などの高度な技術と独自の意匠表現によって生み出される繊細で美しい作品は高く評価された。



会社概要

会 社 名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本 社	〒144-8721 東京都大田区蒲田 5 丁目 37 番 1 号 ニッセイアロマスクエア 17F
T E L	03-5744-0511
国内事業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、 静岡出張所、徳島連絡所、平塚研究所、 平塚工場、磐田工場、鹿島工場、三原工場
海外事業所	世界28の国と地域に事業拠点がごいます
創 業	1920 年 (大正9年) 2月9日
資 本 金	92億4,853万8,972円

取締役及び監査役

代表取締役社長	梶 村 聡	(注)
取締役	依 良 治	1. 取締役野依良治氏は社外取締役であります。
取締役	田 雅 幸	2. 監査役川端茂樹、大西一清、中江康男の各氏は社外監査役であります。
取締役	松 弘 典	
取締役	尾 孝 久	
取締役	藤 原 也	
取締役	アルフレド・エー・アスンシオン	
取締役	山 形 達 哉	
取締役	川 中 史 弘	
取締役	谷 端 茂 樹	
常勤監査役	大 西 一 清	
常勤監査役	中 江 康 男	

執行役員

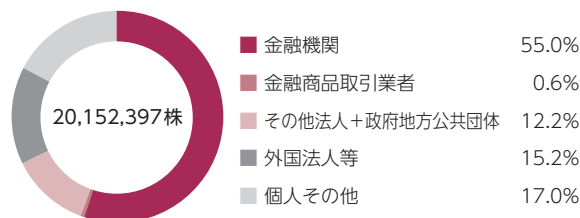
社長執行役員	梶 村 聡
常務執行役員	三 田 雅 幸
常務執行役員	笠 松 弘 典
常務執行役員	アルフレド・エー・アスンシオン
常務執行役員	松 尾 孝 久
常務執行役員	藤 原 也
常務執行役員	山 形 達 哉
常務執行役員	谷 中 史 弘
執行役員	近 藤 宮 一
執行役員	佐 用 昇
執行役員	水 野 直 樹
執行役員	磯 野 裕 一

株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000 株
発行済株式の総数	20,152,397 株
株 主 数	5,567 名

株式の分布状況

所有者別構成比



(注) 個人その他には、自己株式としての保有分 (1.6%) が含まれております。

大株主

株 主 名	所有株式数 (千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,706	13.6%
日本生命保険相互会社	1,468	7.4%
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	980	4.9%
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	947	4.8%
共栄火災海上保険株式会社	750	3.8%
中江産業株式会社	720	3.6%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	685	3.5%
株式会社みずほ銀行	604	3.0%
株式会社紀陽銀行	471	2.4%
高砂香料従業員持株会	432	2.2%

(注) 1. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数 (316,851 株) を控除して計算しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) の所有株式数には信託業務に係る株式数が含まれております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	同
(同 連 絡 先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所第1部 (化学)
証券コード	4914
単 元 株 式 数	100株
公 告 の 方 法	電子公告により行う
公 告 掲 載 URL	http://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IR情報

詳細な財務情報をご希望の方は当社ホームページ「IR 情報」をご利用ください。

URL <http://www.takasago.com/ja/ir>

高砂香料グループの「環境・衛生・安全」への取り組み



当社グループは、持続的な社会の実現 (= サステナビリティ) に向けて、環境保全にグローバルに取り組んでいます。詳細については、当社ホームページ (「サステナビリティ」) をご参照ください。

高砂香料工業株式会社
『社会・環境報告書 2016』

URL <http://www.takasago.com/ja/sustainability/index.html>

● 見通しに関する注意事項

本冊子には、業績見通し等の将来に関する記述が含まれておりますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



第二次世界大戦後の不景気の中で丸見屋を退社した 甲斐庄楠香がついにみずから香料会社の創設を決意。



大正2年の年末にヨーロッパから帰国した甲斐庄楠香は、翌大正3年からミツワ石鹸を販売していた丸見屋試験部で働き始め、当時「人造香料」と呼ばれた合成香料の製造に着手します。その年の7月には第二次世界大戦が勃発し、戦争当事国からの物資の輸入が激減しました。香料を輸入に頼っていた石鹸業界もその影響を大きく受け、品質や価格で劣っていた国内産のものでも喜んで使うようになります。前回「タイムリーな帰国」と書いたのはこのことで、国内で国産の合成香料の需要が高まる時期に、まさに香料を作るために帰って来たのが楠香だったのでした。

丸見屋は合成香料の製造を手掛けるとともに、本格的な開発を進めるため大正4年には当時として画期的な設備と陣容を誇った「丸見屋化学研究所」を設立します。楠香は香料課長兼農事課長として活躍します。楠香の指導のもと、丸見屋では石鹸用香料などのフローラル(花)の香調に使われるシトロネロールやヨノンといった合成香料を製造していました。

ところが大正7年に戦争が終わり、ヨーロッパの国々が平時の生産に戻るとともに、香料の輸入も再開されました。そうなるに品質や価格で劣る丸見屋の香料も苦境に立たされます。その結果丸見屋の店主三輪善兵衛は香料事業の縮小を決意し、大正8年の7月に楠香に辞任を要求します。背景には技術者肌の楠香と経営者との間に意見や方針の相違があったようですが、この騒動で丸見屋主人の言動を不服として楠香の部下を中心に十数名が楠香とともに丸見屋と袂を分かちました。

ここに至り、丸見屋を同時に辞任させられた、京都帝大の先輩でもある岸喜鑑の勧めもあった、楠香は丸見屋時代の若手の技術者を集めてみずから香料製造の会社を創ることを決意します。とは言え、もとより資本がある訳ではありません。楠香は東京と京都を往復しながら、主に京

都一中の同窓生、京都帝大の同窓生や理学部関係者たちに会って資本金の調達に奔走します。幸い京都一中の後輩中江龍二を通じて鉱山や森林資源で財を成した中江家からの出資も受けられることになり、大正9年2月9日に高砂香料が誕生しました。その年の7月には現在本社のある蒲田の地に本社と工場を移します。

当初は丸見屋時代に製造していた合成香料の品目をそのまま引き継いで作っていましたが、幸いにも軽微な被害ですんだ関東大震災後にはシトロネラ油などの天然精油の蒸留を始めます。さらに、大正14年にはオゾン酸化によるバニリン、ヘリオトロピンの製造試験を始め、商工省からの研究奨励金を受けながら研究を進め、昭和3年に商品化に漕ぎつきます。技術者集団が高砂の創成期をリードしていたことが、そうした経緯からも窺い知ることができます。

【以下次号】

次号では戦時下、本社を台北に移し社名を変更するなど苦難の時代の高砂の姿を追うことにします。



創業当時の蒲田工場